



だより



R6.3.12 Vol.41

### 笑顔

先日、賞状伝達がありました。1年生は名前を呼ばれると大きな声で返事をして、満面の笑みで前に出てきました。賞状を渡した後も「ありがとうございました！」と気持ちの良い挨拶が聞こえました。

これは担任の躰です。ただ、ここで感じていただきたいのは、「笑顔まで躰けることはできない。」ということです。賞状をもらうということは、何かを頑張った成果です。そこに向けて、一生懸命取り組んだのでしょう。そこには当然、担任の指導や躰があります。躰というと厳しいイメージがありますが、愛ある躰は、子供を成長させ、結果、そこに笑顔が生まれています。

優しさと厳しさ、これは相反するものではありません。優しさの中の厳しさ、厳しさの中の優しさ。どちらも大切にしたいと感じています。

### 実は…

校長室だよりも当初の目標通り、週1ペースで発行ができています。拙い内容にお付き合いいただき、感謝！感激！雨あられ！です。

はじめに自分に課した目標を守りたいとの思いと、もう一つ！モチベーションとなるものがありました。

実は…3年生が出している学級だよりが、同じ週1ペースで出ており、同じく41号を迎えています。「まだまだ若いもんには負けん！」と静かなる闘志を燃やしつつ、勝手に競っています。(何の勝負？笑)

週1でクラスの様子を伝えようとする意欲が花丸ですね。発行前に目を通しますが、クラスの楽しく一生懸命な様子が伝わってきます。

私も負けません！（笑）

### 四方山話令和5年度 ver.其の四十一(学力の経済学)

もう10年近く前になるでしょうか。話題になっていた「学力の経済学」という一冊の本。当時も読んだのですが、ネットを見ていると、かなり安く中古本として出ていたので、『もう一回読んでみるか？』とポチりました。「ご褒美で釣ってはいけないのか？」「褒めて育てるは本当か？」「ゲームは子供に悪影響を及ぼすのか？」等々、今読んでも、興味深い内容です。ざっくりですが「ご褒美で釣っていいですよ！でも釣り方は大切ですよ！」「褒めて育てるは、褒め方間違くと逆効果ですよ！」「ゲームは直接は悪影響及ぼしません！でも注意点はありますよ。」そんな内容でした。その当時読んだ時は、「ええー！ そうなのおー？！」と目からうろこ的な内容でもあったのですが、今、読み返してみると、「あ、そりゃ、そうだよね。」と自然に受け入れられるものになっている内容もありました。なぜだろうと考えました。10年という年月の中での経験が教えてくれた知見もあると思います。前号でも触れましたが、人は、経験知を重ねていくことで成熟していきますし、それが人生です。10年前と同じ本を読んで同じ反応をしていたら、その間、「お前何してたんだ？」って話ですよ。もう一つ思うのは、成人した教え子たちと話す機会が格段に増えたこともある気がします。教え子たちが声をかけてくれることは本当に教師冥利に尽きます。社会人になったり、家庭を持ったり、子供ができたりの教え子たちとの話の中で、自分が教師としてしてきたことの一つの答えが返ってきます。(アルコールが入っている時もあるので、かなり率直に…)嬉しいこともたくさんありますが、反省することも、もちろんあります。それを今の教え子(もう担任を持つことは多分ありませんが…)たちの指導にフィードバックできる。これは本当に大きいなあと思います。

人を育てるという仕事の答えは決してすぐには出ません。何年も何十年も経って、教え子たちが一つの答えを返してくれます。それが教育の醍醐味かもしれません。(怖いですけどね…)

「学力の経済学」10年前に読んだ時は、その内容に惹きつけられました。今読んでみると、頷きながら読み進めている自分がいます。いいか悪いかは分かりませんが、年取ったなということは実感しています。(笑)